



交通事故につながりやすい子どもたちの思考・行動

①一つのものに注意が向くと、周りのものが目に入らなくなる。

- ・道路で遊びに夢中になっていて、近づいてきた車に気がつかない。
- ・ボールを追いかけて道路に飛び出す。
- ・道路の反対側の家族のところへ行こうと、周りを確認せずに道路に飛び出す。

②状況に応じた適切な判断ができにくい。

- ・信号が青になると一目散に走り出す。
- ・手を上げれば車は止まると思い込み道路を渡りだす。



③気分によって行動が変わる。

- ・叱られた後などに気持ちが動揺して、行動が衝動的になる。
- ・外に出ると、急に走り出したりする。

④大人の真似をする。

- ・信号を無視する。
- ・横断歩道のないところを横切る。

⑤物の陰で遊ぶ傾向がある。

- ・物陰から急に飛び出す。
- ・車の後ろなどにしゃがみこんで遊ぶため、運転席から確認できない。

⑥あいまいな言葉はよく理解できない

- ・「危ないよ」「気をつけて」といった言葉だけでは、「どうして危ないのか」「何に気をつけるのか」がわからない。

保護者の皆様の出かける前のお声掛けが有効です。

ぜひ、具体的に、お子さんと交通安全について

話し合ってみてください

